

山と博物館

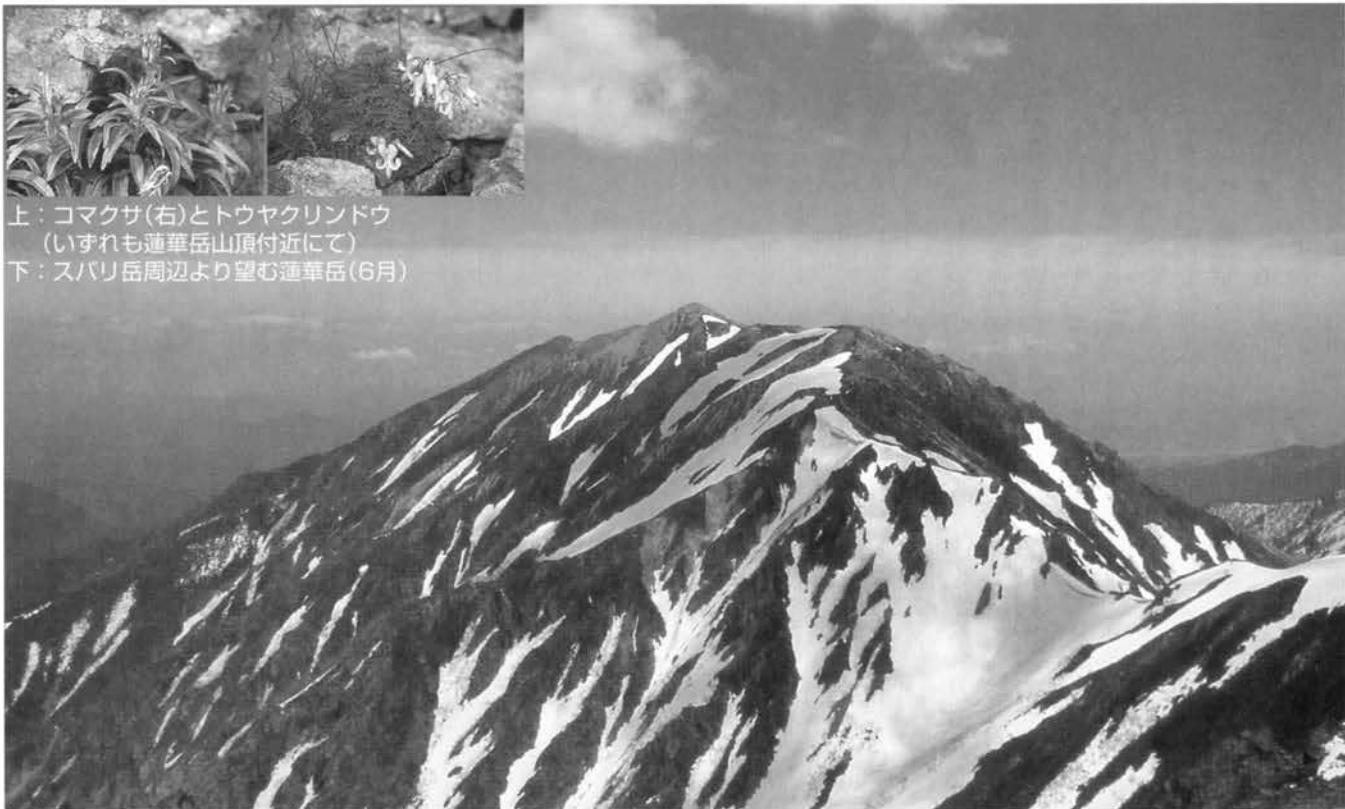
第48巻 第11号 2003年11月25日

市立大町山岳博物館



上：コマクサ(右)とトウヤクリンドウ
(いずれも蓮華岳山頂付近にて)

下：スバリ岳周辺より望む蓮華岳(6月)



蓮華岳の「貴重な薬草」とは

文・写真 関 悟志

ここ数年来、春から夏にかけて針ノ木・蓮華岳に登る機会が毎年数回あります。今年も蓮華岳の山頂周辺ではコマクサが見事な花を咲かせ、薄紅色の絨毯を一面に敷いたように群落が広がっていました。私はこの景色を見るたびに思い返すことがあります。それはイギリス人アーネスト・メイスン・サトウが残したこんな記述です。

「人夫は蓮華岳の頂上にあるという貴重な薬草のことを口にした。それは昔から人が生きるか死ぬかを占うといわれている。もし水がめの中に入れたとき、それが開けばその人は生き、閉じれば間もなく死ぬのだという。」（A·M·サトウ著／庄田元男訳『日本旅行日記1』平凡社、一九九二）

これは明治十一年（一八七八）、当時イギリス駐日公使館の二等書記官兼日本語書記官であったサトウが大町から針ノ木峠を越えた際に記したもので、日本の言語や歴史といった日本文化に精通し、十九世紀の優れたイギリス人日本研究者の一人といわれるサトウは駐日公使館時代に日本各地を旅行し、案内書も編集・発行しています。

そのサトウが耳にした「蓮華岳の頂上有るという貴重な薬草」とは、一体どんなものだったのでしょうか。残念ながらサトウの記述には具体的な名称が出てきません。そこで、想像力を少し膨らませて推測してみます。

薬草ということなので植物であることは間違いないでしょう。薬に用いた植物で蓮華岳山頂付近に見られるとなれば、まずコマクサ、そしてトウヤクリンドウが頭に浮かんできます。前者は冒頭に述べた通り群生し、古来、靈薬「百草」の一薬種であつたと伝えられます。後者はその根を薬に用いたことから「当薬竜胆」という和名が付いたとされ、蓮華岳山頂にも生育しています。

しかし、人の生死を占つたという点については、果してそれらの植物がそのような用途に使われたのか不明であり、さらに薬となる植物を使った占いが大町周辺でかつて行われていたのかどうかも分かりません。以後の課題とします。

今後、薬用植物やト占の俗信という民俗学的側面を掘り下げることで、蓮華岳の「貴重な薬草」の正体があるいは明らかになるかも知れません。以後の課題とします。

歴史史料からみた佐々成政の 敵冬期北アルプス越え

—松川村榛葉文書を中心にして（補遺）—

荒井 今朝一

本誌第四八巻第九・一〇号に掲載した荒井今朝一氏著「歴史史料からみた佐々成政の敵冬期北アルプス越え」松川村榛葉文書を中心にして（前・後編）」において、前回まで掲載できなかつた注記を補遺として今回ご紹介します。

なお、「—内は掲載巻号、（—）内はここで解説する語句などの記述箇所を示します。

（編集部）

〔第48巻第9号（前編）〕

〔1〕太閤記（2頁1段2行目）

小瀬甫庵が著した『甫庵太閤記』のほか、川角三郎兵衛が著した『川角太閤記』などが、あるが、一般に「太閤記」というときは、『甫庵太閤記』をさす。

〔2〕民間伝承（2頁1段6行目）

例えば、大町市平野口大出集落の西正院所蔵の大姥尊像（室町時代、大町市指定文化財）は、佐々成政一行が芦嶋寺から持参したとの伝承が地元に残されている。

〔3〕大久保忠隣（2頁1段12行目）（おおくぼただか 一五五三）（一六二八）

江戸時代前期の幕臣、元亀三年徳川家康の奉行となり、後小田原城主、徳川秀忠の老人となる。慶長十八年改易され近江に幽閉後、京都で没する。

〔4〕本多正信（2頁1段12行目）（ほんだまさのぶ 一五三八）（一六二六）

徳川家康の側近の謀臣、大久保忠隣と共に

奉行となり、後相模甘繩城主、徳川秀忠の老中となる。子の正純は宇都宮城主となるが、元和八年改易されて出羽へ配流となる。

〔5〕当代記（4頁1段2行目）二

〔天正十二年〕同十二月、佐々陸奥守浜松

江下る、時に（織田）信雄、吉良、鷹野したまふ間、彼の地において佐々対面あり、やがて帰国、上下信州を通る

〔6〕家忠日記（4頁1段3行目）三

〔天正十二年〕十二月大

廿五日、丁卯、越中の佐々藏助（成政）浜

松へこし候

〔7〕家康と成政の間を往来した使者や間者などとする見解もある（4頁1段17行目）

遠藤和子氏著の『佐々成政』では、「大久保忠隣・本多正信連署状」の宛て人である新屋但馬守が当時、松川村を領していたものとみなし、「越中往復通用之衆」を成政の使者と断定している。

〔8〕この連署状の年号について（4頁1段26行目）

保忠隣・本多正信連署状の件は、秀吉の策謀が成功したためで、これを契機に、それまで敵対関係にあつた小笠原貞慶と上杉景勝は、逆に友好関係となる。

〔9〕〔第48巻第10号（後編）〕

〔10〕武田勝頼から但馬守に任せられ（2頁1段8行目）

武田勝頼官途朱印状（松川村榛葉文書）

〔11〕小倉山城（2頁1段23行目）

現在の南安曇郡三郷村にあつた戦国時代の山城。「信府統記」第十八「松本領古城記目録」には次のように記してある。

一 小倉山古城地
小倉村藏前ヨリ亥ノ方峰マテ九町四十間程
但シ内麓ヨリ山ノ高サ二町十六間程
(中略) 城主知レズ、但シ此辺ノ地頭小笠原但馬守貞政(中略)

同三郎次郎 天正十三年乙巳年卒ス、淨心寺牌所ナリ、然レバ彼人ノ要害ナルヘシ

(15) 淨心寺（2頁2段1行目）
淨土宗知恩院末、山号一仏山。小笠原貞政の戒名は、「当山開基光明院殿」一聲脱叟淨心大居士。

〔16〕〔笠系大成小笠原系図〕（2頁2段12行目）

小倉藩小笠原家の家譜。附録に多くの古文書、古記録を採用している。以下に系図のう

ち、本論に関係する部分を抄録する。

〔12〕新発田重家（2頁1段13行目）（しばたしげいえ ? 一五八七）

（竜朱印）
標葉但馬守
天正三年 乙亥 十月吉辰

によって信濃府中（松本）を追われた小笠原長時の三男。天正十年七月、本能寺の変後の混乱に乗じて深志城（松本城）を奪取し、徳川家康の後援を得ながら上杉景勝に対抗し、筑摩郡から安曇郡の領有化に成功する。天正十三年家康を離反するが、天正十五年、秀吉の命で再び家康に臣従する。天正十八年、下総古河へ転封となる。なお、貞慶を長時の三年の十一月には不和になつていてこと（4頁1段31行目）

（13）直江兼続（2頁1段16行目）（なおえかねつぐ 一五六〇）（一六一九）

戦国期から江戸時代初期の上杉氏の宰相、樋口氏の出自で、天正九年に与板城主直江家を継ぎ、山城守を称す。上杉景勝の信任が厚く、家中に強力な権限をもち、上杉氏が会津、秀吉の命を受けた景勝に攻められて同十五年十月滅亡する。小笠原貞慶の援軍も秀吉の命により派遣されたものと考えられる。

（14）小倉山城（2頁1段23行目）

現在の南安曇郡三郷村にあつた戦国時代の山城。「信府統記」第十八「松本領古城記目録」には次のように記してある。

（15）小倉山城（2頁1段23行目）

（16）〔笠系大成小笠原系図〕（2頁2段12行目）

（17）新発田重家（2頁1段13行目）（しばたしげいえ ? 一五八七）

（18）（竜朱印）

（19）（竜朱印）

（20）（竜朱印）

（21）（竜朱印）

（22）（竜朱印）

（23）（竜朱印）

（24）（竜朱印）

（25）（竜朱印）

（26）（竜朱印）

（27）（竜朱印）

（28）（竜朱印）

（29）（竜朱印）

（30）（竜朱印）

（31）（竜朱印）

（32）（竜朱印）

（33）（竜朱印）

（34）（竜朱印）

（35）（竜朱印）

（36）（竜朱印）

（37）（竜朱印）

（38）（竜朱印）

（39）（竜朱印）

（40）（竜朱印）

（41）（竜朱印）

（42）（竜朱印）

（43）（竜朱印）

（44）（竜朱印）

（45）（竜朱印）

（46）（竜朱印）

（47）（竜朱印）

（48）（竜朱印）

（49）（竜朱印）

（50）（竜朱印）

（51）（竜朱印）

（52）（竜朱印）

（53）（竜朱印）

（54）（竜朱印）

（55）（竜朱印）

（56）（竜朱印）

（57）（竜朱印）

（58）（竜朱印）

（59）（竜朱印）

（60）（竜朱印）

（61）（竜朱印）

（62）（竜朱印）

（63）（竜朱印）

（64）（竜朱印）

（65）（竜朱印）

（66）（竜朱印）

（67）（竜朱印）

（68）（竜朱印）

（69）（竜朱印）

（70）（竜朱印）

（71）（竜朱印）

（72）（竜朱印）

（73）（竜朱印）

（74）（竜朱印）

（75）（竜朱印）

（76）（竜朱印）

（77）（竜朱印）

（78）（竜朱印）

（79）（竜朱印）

（80）（竜朱印）

（81）（竜朱印）

（82）（竜朱印）

（83）（竜朱印）

（84）（竜朱印）

（85）（竜朱印）

（86）（竜朱印）

（87）（竜朱印）

（88）（竜朱印）

（89）（竜朱印）

（90）（竜朱印）

（91）（竜朱印）

（92）（竜朱印）

（93）（竜朱印）

（94）（竜朱印）

（95）（竜朱印）

（96）（竜朱印）

（97）（竜朱印）

（98）（竜朱印）

（99）（竜朱印）

（100）（竜朱印）

（101）（竜朱印）

（102）（竜朱印）

（103）（竜朱印）

（104）（竜朱印）

（105）（竜朱印）

（106）（竜朱印）

（107）（竜朱印）

（108）（竜朱印）

（109）（竜朱印）

（110）（竜朱印）

（111）（竜朱印）

（112）（竜朱印）

（113）（竜朱印）

（114）（竜朱印）

（115）（竜朱印）

（116）（竜朱印）

（117）（竜朱印）

（118）（竜朱印）

（119）（竜朱印）

（120）（竜朱印）

（121）（竜朱印）

（122）（竜朱印）

（123）（竜朱印）

（124）（竜朱印）

（125）（竜朱印）

（126）（竜朱印）

（127）（竜朱印）

（128）（竜朱印）

（129）（竜朱印）

（130）（竜朱印）

（131）（竜朱印）

（132）（竜朱印）

（133）（竜朱印）

（134）（竜朱印）

（135）（竜朱印）

（136）（竜朱印）

（137）（竜朱印）

（138）（竜朱印）

（139）（竜朱印）

（140）（竜朱印）

（141）（竜朱印）

（142）（竜朱印）

（143）（竜朱印）

（144）（竜朱印）

（145）（竜朱印）

（146）（竜朱印）

（147）（竜朱印）

（148）（竜朱印）

（149）（竜朱印）

（150）（竜朱印）

（151）（竜朱印）

（152）（竜朱印）

（153）（竜朱印）

（154）（竜朱印）

（155）（竜朱印）

（156）（竜朱印）

（157）（竜朱印）

（158）（竜朱印）

（159）（竜朱印）

（160）（竜朱印）

（161）（竜朱印）

（162）（竜朱印）

（163）（竜朱印）

（164）（竜朱印）

（165）（竜朱印）

（166）（竜朱印）

（167）（竜朱印）

（168）（竜朱印）

（169）（竜朱印）

（170）（竜朱印）

（171）（竜朱印）

（172）（竜朱印）

（173）（竜朱印）

（174）（竜朱印）

（175）（竜朱印）

（176）（竜朱印）

（177）（竜朱印）

（178）（竜朱印）

（179）（竜朱印）

（180）（竜朱印）

（181）（竜朱印）

（182）（竜朱印）

（183）（竜朱印）

（184）（竜朱印）

（185）（竜朱印）

（186）（竜朱印）

（187）（竜朱印）

（188）（竜朱印）

（189）（竜朱印）

（190）（竜朱印）

(17) 『二木家記』
（別掲図参照）

(17)『三木家記』(2頁2段27行目)

道で、岐阜県の神岡から船津を経て富山へと通じていた。「神坂（みさか）」の名もこの古道のままであるべきである。

害により閉鎖となつた。(中島正文著「北アルプスの史的研究」一九八六)

小路の名跡を継いだ父義綱の死により元亀
年、家督を相続し、織田信長と結んで飛騨統
一を果たすが、天正二年会津長江にそつてひ

二木氏は小笠原一族としているが、元来は西牧氏と同族で滋野氏から分かれたと考えら

れ、三郷村二木を本貫とする在地武士。小笠原氏に臣従した時期は不明であるが、小笠原貞慶の安藝・筑摩平定に尽力し、近世には小笠原氏の重臣となつた。『二木家記』は、慶長十六年に二木寿斎が一族の戦功について記したもので、『笠系大成小笠原系図』にも同様の記載が多く見られる。

(22)いわゆる「飛驒新道」（小倉新道ともいう）が整備され、近世末には相当量の人や物資が通行していた（4頁3段13行目）

焼岳の噴火で記録上最も古いのは、この五年の大爆発とされる。以後、数多くの噴火記録があるが、全て水蒸気爆発で、特に梓川を堰き止め、大正池を誕生させた大正四年の爆発は有名。

(23) 復路は季節的な制約や雪崩の危険性などから飛騒ルートであつたことも想定される（「4段7行目」）

(1) 塩尻峠合戦（三貳一戦（行目）
天文十七年、信濃府中の小笠原長時と武田
晴信（信玄）が現在の塩尻峠付近（勝弦峠）
で戦った合戦。この合戦の勝利を契機として、
武田信玄の中信地方に対する攻略が本格化し
た。

ついには武田氏に追われて一部の家臣を同道し近畿地方へ逃亡する（3頁1段8行目）

頼つて越後方面へ逃れ、その後、一族の三好長慶を頼つて近畿地方に滞在した。

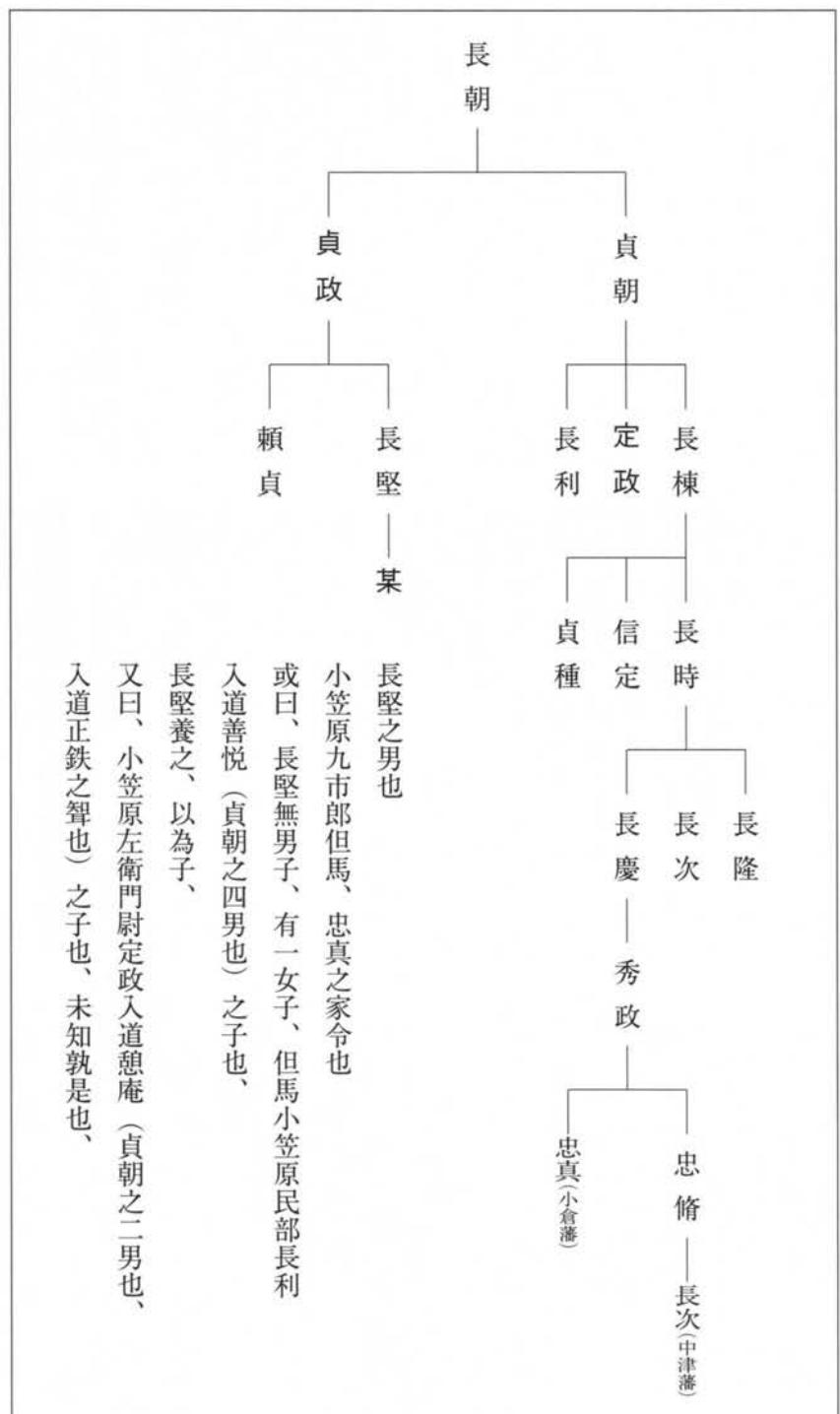
(20) 標葉景林 〈3頁1段14行目〉(しめはけいりん 生没年、実名ともに不明)

「弓馬的伝師範標葉某入道景林、景林受長朝」には、貞政の項に

之伝、而能達糾方事理、世所謂達人也」とし、
賴貞の項には「西三月、長時・貞慶父子上洛、

標葉某入道景林・刑部之丞長堅・賴貞供奉」と記してあり、小笠原流弓箭の奥義を極めた。

(21) 焼岳山頂の南側を通り飛驒の神坂村へと通じる古道（4頁3段9行目）



『笠系大成小笠原系図』(抄録)

バックナンバーのお知らせ

次の巻号の「山と博物館」バックナンバーがあります。ここで紹介した各号収録の題名・著者は主なものですので、詳細についてはお問い合わせください。(大町山岳博物館)

- ▽第38巻第3号(平成5年3月) 40周年記念展示改修にあたって 千葉彬司 北アの山々に想いをはせて
- 山岳博物館展示改修— 山岳博物館
- ▽第38巻第4号(平成5年4月) 写真展開催にあたって 桦川一季節の流れのなかで—
- 北安曇郡白馬村でガロアムシを探集 穂刈貞雄 宮田 渡
- ▽第38巻5号(平成5年5月) 愛鳥週間によせて 田中宏一郎
- 北極の開発・歴史と現状(前) 太田昌秀
- ▽第38巻6号(平成5年6月) 百瀬慎太郎への旅 飯島喜久代
- 鹿島・狩野家「登高」の人達 丸山 彰
- ▽第38巻7号(平成5年7月) 「齋藤清展」によせて 千葉彬司
- 板絵のコスモロジー 扇田孝之
- ▽第38巻8号(平成5年8月) オーストリアへカモシカを贈る ヤマネ
- ライチョウの孵化と育雛 第38巻9号(平成5年9月) 槍沢紀行 ブナ林のキノコ(その二)
- ブナ林へのいざない 清沢由之

- 千葉彬司 湊 秋作 宮野典夫 船山栄治 和田 清
- 明記の上、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛代金をご送金ください。

(送料当方負担)

△第38巻10号(平成5年10月)

山岳博物館
企画展「黒部渓谷—その人跡と自然にふれて—」

△第38巻11号(平成5年11月)

山岳博物館
槍ヶ岳に沈む月

△第38巻12号(平成5年12月)

山寺廃寺跡の出土遺物 幅 具義

△第38巻第3号(平成5年3月)

東チベット・ナムチャバルワ峰の気象 佐藤 章

△第38巻第4号(平成5年4月)

ブナ林のキノコ(その二) 佐藤 章

△第38巻5号(平成5年5月)

上高地冬 居館跡から発見された錫杖 佐藤 章

△第38巻6号(平成5年6月)

歩くスキー(ラングラウフ)を楽しもう 佐藤 章

△第38巻7号(平成5年7月)

古幡和敬 島田哲男

△第38巻8号(平成5年8月)

渡辺逸雄 島田哲男

△第39巻1号(平成6年1月)

曾根原文平使用・旧蔵釣り具等13点 曽根原文平

△第39巻2号(平成6年2月)

岩佐浩幸 岩佐浩幸

△第39巻3号(平成6年3月)

雨飾山の小型哺乳類を調査して 看倉孝明

△第39巻4号(平成6年4月)

クマの棚 岩佐浩幸

△第39巻5号(平成6年5月)

「今宵、君も、同ジ月ヲ見テタライイネ。」 千葉彬司

△第39巻6号(平成6年6月)

飯塚知宏 岩佐浩幸

△第39巻7号(平成6年7月)

曾根原文平使用・旧蔵釣り具等13点 曽根原文平

△第39巻8号(平成6年8月)

飯塚知宏 東 英生

△第39巻9号(平成6年9月)

千葉彬司 (敬称略)

△第39巻10号(平成6年10月)

右記にご希望の巻号がありましたら、一部

△第39巻11号(平成6年11月)

一〇〇円にて販売いたします。博物館窓口でお

△第39巻12号(平成6年12月)

申し込みいただとか、または巻号・部数を

△第39巻13号(平成7年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻14号(平成7年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻15号(平成7年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻16号(平成7年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻17号(平成7年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻18号(平成7年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻19号(平成7年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻20号(平成7年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻21号(平成7年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻22号(平成7年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻23号(平成7年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻24号(平成7年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻25号(平成8年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻26号(平成8年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻27号(平成8年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻28号(平成8年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻29号(平成8年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻30号(平成8年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻31号(平成8年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻32号(平成8年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻33号(平成8年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻34号(平成8年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻35号(平成8年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻36号(平成8年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻37号(平成9年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻38号(平成9年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻39号(平成9年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻40号(平成9年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻41号(平成9年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻42号(平成9年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻43号(平成9年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻44号(平成9年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻45号(平成9年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻46号(平成9年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻47号(平成9年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻48号(平成9年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻49号(平成10年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻50号(平成10年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻51号(平成10年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻52号(平成10年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻53号(平成10年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻54号(平成10年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻55号(平成10年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻56号(平成10年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻57号(平成10年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻58号(平成10年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻59号(平成10年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻60号(平成10年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻61号(平成11年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻62号(平成11年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻63号(平成11年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻64号(平成11年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻65号(平成11年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻66号(平成11年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻67号(平成11年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻68号(平成11年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻69号(平成11年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻70号(平成11年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻71号(平成11年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻72号(平成11年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻73号(平成12年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻74号(平成12年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻75号(平成12年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻76号(平成12年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻77号(平成12年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻78号(平成12年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻79号(平成12年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻80号(平成12年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻81号(平成12年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻82号(平成12年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻83号(平成12年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻84号(平成12年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻85号(平成13年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻86号(平成13年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻87号(平成13年3月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻88号(平成13年4月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻89号(平成13年5月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻90号(平成13年6月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻91号(平成13年7月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻92号(平成13年8月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻93号(平成13年9月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻94号(平成13年10月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻95号(平成13年11月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻96号(平成13年12月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻97号(平成14年1月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻98号(平成14年2月)

お問い合わせください。詳しい内容は、

△第39巻99号(平成14年3月)

お問い合わせください。詳